

「教育と探求社」の プログラム導入へ

別府翔青高、新年度

【別府】別府市の別府翔



探究学習に役立ててもら
おうと寄付をしたススキ
の鈴木清己社長（左）と
別府翔青高の阿部充校長

青高（阿部充校長）は「総合的な探究の時間」を充実させようと、新年度から「教育と探求社」（東京）の教育プログラムを導入する。企業活動や社会を題材に学ぶ内容で、1年生を対象に実施する。

同社のプログラムは全国の中学・高校410校で導入されている。県内では初めて。

プログラムに関連する教材や研修の費用は、大分市の半導体関連商社「ススキ」（鈴木清己社長）からの寄付金100万円を充てる。

11日、同校で贈呈式があった。阿部校長は「社会に貢献できる人材の育成に役立てたい」と感謝。産業界

の未来を担う人材輩出のため寄付を申し出た鈴木社長は「人工知能を使うには探究心や考える力が大事。官民一体となって支援をしたい」と話した。